



学校法人近畿大学弘徳学園
近大姫路大学
近畿大学豊岡短期大学
こうのとり認定こども園

平成26年度 事業計画書

学校法人 近畿大学弘徳学園

I 法人の概要

(1) 学園設立とあゆみ

学校法人近畿大学弘徳学園は、平成16年4月に学校法人近畿大学から、近畿大学豊岡短期大学（同通信教育部）及び同附属幼稚園を母体として分離・独立した。そして、多年の懸案であった看護系の四年制大学、「近大姫路大学看護学部看護学科」を平成19年4月に開学し、3つの学校を運営する学園へと発展し、さらに、平成19年12月に文部科学省から、「近大姫路大学教育学部こども未来学科及び同通信教育課程」増設の認可を受け、平成20年4月に増設した。

本学園の経営規模は、独立4年目にして姫路市及び豊岡市に2つのキャンパスを有し、近大姫路大学の2学部2学科に、教育学部通信教育課程を加え、近畿大学豊岡短期大学こども学科及び同通信教育部並びに同短大附属幼稚園を運営する学園となった。

加えて、平成26年4月に、保育園を開園し、幼保連携型認定こども園の開園を予定している。

(2) 学園の建学の精神と教育目標

本学園の建学の精神は、近畿大学の創設者である世耕弘一先生が説かれた「教育の目的は、人に愛され、信頼され、尊敬される人を育成することにある」を座標軸とする。そして、この精神を具現化するためには、自然環境に対する優しい心、人をおもいやる心、社会に対する深い洞察力及び正しい歴史観を体得することによって、はじめて、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される人間を養い得ると考えている。

この建学の精神を達成するために、本学園では次の教育目標をかかげ、その実現に向け教職員一体となって邁進することに努めている。

- ①人間は人間だけで生きているのではなく、自然の中で他の生命とともに、生かされているという認識及びその共生を推進するための実践力を培う。
- ②専門職業人としてもつべき基本的な倫理観及び思いやりの心を培う。
- ③専門的に必要な基礎知識・技術を修得するとともに、創造性を培う。
- ④社会・歴史に対応する深い洞察力を身に付けるとともに、豊かな人間性を培う。
- ⑤国際社会に適応しうる感性を育み異文化を理解しうる人を培う。

II 事業計画の概要

(1) 予算編成の基本方針

平成26年度予算編成における基本方針とその概要について

平成 25年9月26日

近畿大学弘徳学園 法人本部

○平成26年度予算編成の基本方針

私学を取り巻く環境は、少子化の進行と、政権交代がもたらす経済状況や私学行政の変化により大学・短大の経営は、さらに厳しくなることが予想され、また、18歳人口の減少により大学間の学生募集は、今まで以上に学生確保が困難な状況になることを認識することも重要であります。加えて、原子力発電所の事故や異常気象などがもたらす大きな環境変化など様々な諸問題により、補助金等の私学助成の今後のあり方は、楽観できない見通しであります。

こうした状況下にあつて、学園が、本来の目的である教育と研究を永続的に維持し、かつ内容の充実を図るためには、学園経営における「健全な財政の維持と発展」を目指すものでなければなりません。そのことは、中・長期的な財政予測を踏まえた予算編成なくして実現できません。

もとより、予算編成の基本は、予算編成の過程において、各所管の意見がよく反映され、教育活動とその他の諸活動の計画が一体化した取組みが重要であり、諸活動のすべての領域を包含することに留意し、学生生徒等納付金を中心とする収入予算の編成についても、入学者の動向をよく見極め、実態に即した予算を編成することに心がけなければなりません。

上記のような観点から、平成26年度の事業予算を含めた「学園全体の支出予算は、収入予算の範囲内」に抑えることを目標とし、特に教育・研究経費に重点配分を行いながら、「収支の均衡」と「冗費の削減」を十分に考慮のうえ、「学校法人会計基準」、「勘定科目処理要領及び細則」に準拠した予算を編成することを基本方針とします。

なお、今日の学校経営は、財務情報はもちろんのこと、教育情報の公開が義務付けられ、経営の透明性と説明責任がより一層問われる時代であり、こうした時代の要請に応え得る予算編成をおこなうことが重要であります。

事業計画予算

- 教育研究と教育環境の充実に配慮
- 施設等の安全性確保に配慮
- 学園の将来構想を基礎として計画
- 緊急性、重要性、収支のバランスに配慮

収入予算

- 学生生徒等納付金については、在籍学生数見込を基礎に計上
- その他の収入科目については、実績見込み等勘案して計上

経常的経費の支出計画

- 収支の均衡と冗費の削減を予算編成の基本としている
- 物品調達等の重要性と必要性及び緊急性を検討する
- 収入予測を超過しない経常的支出の計画を算定している

(2) 主な事業の目的・計画等

① 平成26年度の主な事業計画に係る経費は別表の通りである

別 表

(単位：千円)

事業No	対象学校	事業名	予算額
2601	豊岡短期大学	豊岡短期大学における第三者評価（短期大学基準協会）	1,480
2602	近大姫路大学	近大姫路大学新2号棟の建築について	317,040
2603	豊岡短期大学	豊岡短期大学 本館耐震補強工事	100,000
2604	豊岡短期大学	豊岡短期大学 本館外壁塗装及び屋上防水シート張替工事	32,300
2605	近大姫路大学	近大姫路大学平成26年度看護学部看護師・保健師・助産師国家試験対策について	10,223
2606	近大姫路大学	近大姫路大学教員採用試験に伴う対策講座及び学生支援	720
2607	近大姫路大学	近大姫路大学テニスコート改修工事	70,000
2608	近大姫路大学	近大姫路大学テニス部活動補助（通信）	19,500
2609	法人本部	近大姫路大学看護学部大学院の設置	7,000
2610	豊岡短期大学	土地の購入及び整備について	34,392
2611	近大姫路大学	ネットワークセキュリティ強化事業	22,452
2612	豊岡短期大学	ネットワークセキュリティ強化事業	22,840
2613	豊岡短期大学	豊岡短期大学通信教育部教務システムのオープン化	40,500
2614	近大姫路大学	近大姫路大学通信教育事務部教務プログラム開発及びシステム改修	1,000
2615	近大姫路大学	近大姫路大学図書館システムハード機器・ソフトウェア入替え	10,876
2616	豊岡短期大学	豊岡短期大学図書館システムの入替	9,798
2617	近大姫路大学	近大姫路大学人文学・人権教育研究所学術雑誌の発行	1,800
2618	近大姫路大学	近大姫路大学人文学・人権教育研究所学術講演について	700
2619	近大姫路大学	近大姫路大学PC及びプリンタ入替計画	8,500

事業No	対象学校	事業名	予算額
2620	近大姫路大学	近大姫路大学通信教育事務部教務システムサーバー及び周辺機器の更新	7,558
2621	近大姫路大学	近大姫路大学通信教育事務部教務システム改修	2,000
2622 —1	豊岡短期大学	平成26年度公開講座（音楽リサイタル・パソコン講座）支出	3,220
2622 —2	豊岡短期大学	平成26年度公開講座（音楽リサイタル・パソコン講座）収入	1,200
2623	近大姫路大学	近大姫路大学緊急防災用品の購入	1,000
2624	豊岡短期大学	豊岡短期大学緊急防災用品の購入	200
2625	豊岡短期大学	豊岡短期大学構内電気工作物改修工事	1,150
2626	豊岡短期大学	豊岡短期大学 和花季ひろば（食のフェア＋育ちあいのなかまづくり）	850
2627	豊岡短期大学	豊岡短期大学 こどもフェスタ2014	250
2628	豊岡短期大学	豊岡短期大学学生主体型行事（サロンd e 近大、みてやま交流会、学内国際交流、豊岡おどり参加）	145
2629	近大姫路大学	近大姫路大学看護学部FD部会	132
2630	近大姫路大学	近大姫路大学図書館資格対策コーナー書架設置	448
2631	近大姫路大学	近大姫路大学地域貢献活動委員会	98
2632	豊岡短期大学	豊岡短期大学本館及び新館学生用トイレ改修工事	14,242
事業合計			743,614
収入合計			1,200
支出合計			742,414

② 平成26年度の主な事業計画に係る概要説明

>> 豊岡短期大学における第三者評価

豊岡短期大学は、平成26年度に短期大学基準協会による第三者評価を受審する予定である。

>>施設設備に関する主な事業

(イ) 豊岡短期大学における改修工事

豊岡短期大学の本館校舎は昭和42年に建築された旧耐震建築物であり、耐震診断の結果も低いため、安全配慮の観点からも、耐震補強工事を計画している。加えて、耐震補強時に、雨漏等の恐れのある屋上防水シートの張替と、汚れが目立ち外観を損ねている外壁の塗替え工事も合わせて計画している。

また、学生用トイレの改修工事については、26年度も引き続き予定しており、学生のニーズに合わせたトイレ環境の整備を計画している。

(ロ) 豊岡短期大学土地の購入

豊岡短期大学では、地域の特性上、車による通学・通勤が多く慢性的な駐車場不足となっているため、新たに土地を購入し、駐車場の整備を行う計画である。

(ハ) 近大姫路大学新2号棟建築工事

近大姫路大学に新2号棟を建築する予定であり、着工は平成26年度、平成27年度に竣工する計画である。平成26年度は着工時の支払予定金額等を予算計計上している。

(ニ) 近大姫路大学テニスコート改修工事

近大姫路大学にあるテニスコートを改修して、国際試合等に対応可能なテニスコートに改修する計画である。

加えて、この整備されたテニスコートを練習拠点として活動するテニス部の部活動を補助する計画である。

(ホ) 緊急時防災用品の購入

近大姫路大学と豊岡短期大学では、大きな災害時の緊急対応用品の備蓄を進めており、備蓄した食料、飲料水、衣類など年次的に更新する計画である。

>>ネットワークセキュリティの向上

ITネットワークは学習・研究活動及び教務・管理事務にとっても、必要不可欠なものであるが、ウイルスの危険性、情報漏えいなど様々な危険を伴うものでもある。より安全な教育学習環境を整えるため、学園全体でのネットワークセキュリティの向上を図る計画である。

>>通信教育システムのオープン化

通信教育にて学習する学生に対して、教務システムをオープン化することを計画している。このオープン化により各種申込の簡便化や、履修状況をリアルタイムに自身で確認することができるなど、通信学習者に対して、教育環境の整備を図る予定である。

>>学生の就学支援に関する主な事業

- (イ) 看護学部における国家試験（看護師、保健師、助産師）対策は、低学年時からの計画的戦略が必要であり、集中講義ゼミや模擬試験などをきめ細かに開講する計画である。
- (ロ) 教育学部における教員採用試験対策について、集中トレーニング講座などの開講を計画している。
- (ハ) 近大姫路大学と豊岡短期大学では、授業料等を減免する形で、様々な奨学金制度を設け、学生の就学をサポートする事業を計画している。

>>学術・研究関連事業

- (イ) 平成25年度に、近大姫路大学「人文学・人権教育研究所」を開所した。研究所では、学術雑誌の刊行、公開講演会の開催を計画している。
- (ロ) 近大姫路大学と豊岡短期大学の図書館用図書管理システムとハード機器を入替し、教育・研究環境の充実を図る計画である。

>>地域貢献等を目的とする主な事業

- (イ) 近大姫路大学では、地域の様々な年代の人との交流を図り、地域への知の貢献を目指すとともに、大学施設の開放も積極的に行うため、「シニアオープンカレッジ」、「源氏物語を読む会」等の開講など事業を計画している。

- (ロ) 豊岡短期大学では、異世代間交流及び地産地消を通しての地域貢献を目指し、短期大学の学生と地域の多世代の人々との、双方向的表現活動による異世代間交流を通して、それぞれの学習成果を発表する場として「和花季ひろば 育ちあいのなかまづくり」と但馬・丹後地域の地産地消と食育をテーマとした「和花季ひろば 食のフェア」を計画している。

- (ハ) 豊岡短期大学で毎年開講している公開講座について、本年度は、海外から著名な音楽家を招き音楽リサイタルを開催する計画である。また、パソコン講座についても、要望の高いエクセル（表計算）講座を中心に開講する予定である。

>>地域子育て支援事業

認定こども園の開園に伴い、地域子育て支援事業、スクーリング預かり保育等の支援事業を行う予定である。

(3) 学園の将来構想

本学園における将来構想は、次の通りである。

姫 路

- ① 看護学部マスターコース（大学院）の設置計画

Ⅲ 財務の概要

(1) 予算の概要

① 資金収支予算の状況

(単位：千円)

収入の部	H26年度予算	H25年度予算(補正)	増 減	平成26年度予算概要
学生生徒等納付金収入	3,286,013	3,255,609	30,404	・授業料、入学金等の納付金
手数料収入	131,582	131,405	177	・入学検定料等の手数料
寄付金収入	0	0	0	
補助金収入	427,570	637,312	△209,742	・私立大学等経常費補助金他
資産運用収入	1,223	1,220	3	・預金利息
事業収入	35,800	11,675	24,125	・保育園保育料等
雑収入	15,010	12,721	2,289	・コピー代等その他の雑収入
前受金収入	448,462	449,869	△1,407	・翌年度の学生生徒等納付金
その他の収入	35,699	54,947	△19,248	・預り金
資金収入調整勘定	△449,869	△462,978	13,109	・前期末前受金
前年度繰越支払資金	2,246,122	2,095,149	150,973	・前期末の現金預金
収入の部合計	6,177,612	6,186,929	△ 9,317	

支出の部	H26年度予算	H25年度予算(補正)	増 減	平成26年度予算概要
人件費支出	1,993,131	1,882,150	110,981	・本俸、賞与、諸手当、福利費等
教育研究経費支出	677,313	754,757	△ 77,444	・教材等教育研究にかかる経費
管理経費支出	330,374	392,031	△ 61,657	・学生募集経費等管理的経費
施設関係支出	534,032	684,781	△150,749	・建物等施設に関する支出
設備関係支出	109,785	89,945	19,840	・機器備品等設備に関する支出
その他の支出	86,500	164,897	△ 78,397	・前期末未払金の支払等
予備費	30,000	30,000	0	
資金支出調整勘定	△51,700	△57,755	6,055	・期末未払金等
次年度繰越支払資金	2,468,177	2,246,123	222,054	・翌年度に繰越す現金預金
支出の部合計	6,177,612	6,186,929	△ 9,317	

② 消費収支予算の状況

(単位：千円)

収入の部	H26年度予算	H25年度予算(補正)	増 減	平成26年度予算概要
学生生徒等納付金	3,286,013	3,255,609	30,404	※資金収支予算参照
手数料	131,582	131,405	177	
寄付金	0	0	0	
補助金	427,570	637,312	△209,742	
資産運用収入	1,223	1,220	3	
事業収入	35,800	11,675	24,125	
雑収入	15,010	12,721	2,289	
帰属収入合計	3,897,198	4,049,942	△ 152,744	
基本金組入額合計	△641,918	△556,264	△ 85,654	・第1号・第4号基本金組入額
消費収入の部合計	3,255,280	3,493,678	△ 238,398	

支出の部	H26年度予算	H25年度予算(補正)	増 減	平成26年度予算概要
人件費	2,008,275	1,895,749	112,526	(退職給与引当金繰入額含)
教育研究経費	817,548	891,251	△ 73,703	※資金収支予算参照(減価償却費含)
管理経費	356,449	414,816	△ 58,367	(減価償却費含)
資産処分差額	38,223	139,449	△ 101,226	・固定資産処分に係る除却費
予備費	30,000	30,000	0	
消費支出の部合計	3,250,495	3,371,265	△ 120,770	
当年度消費収支超過額	4,785	122,413	△ 117,628	・収入超過状態
前年度繰越消費収支超過額	△642,797	△765,210	122,413	・△は支出超過状態
翌年度繰越消費収支超過額	△638,012	△642,797	4,785	・△は支出超過状態

※ 千円未満四捨五入しているため、合計等数値が一致しないことがある。

予算種類の説明

※資金収支とは

当該会計年度における諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容と当該会計年度における支払資金の収入・支出の顛末を明らかにするためのものであり、1年間のお金の動きを網羅したものである。

※消費収支とは

当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容と収支の均衡状態を明らかにするものであり、1年間の事業成績を判断するもので、企業会計における損益計算書に近いものといわれている。

予算概要の説明

資金収支予算について

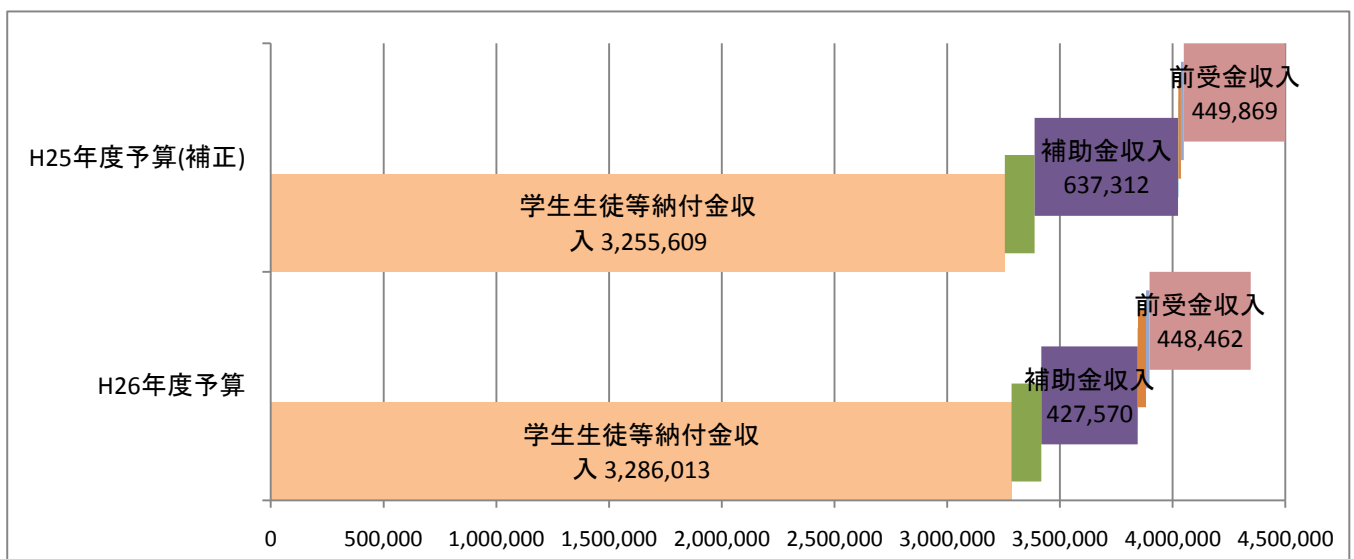
資金収支予算の収入の部では、前年度に比べ学生生徒等納付金及び事業収入の増加を見込んでおり、学生生徒等納付金の増加要因は、通信教育にかかる入学生及び在学生数の増加である。事業収入の増加は、平成26年度開園の認定こども園における保育園部門の収入、いわゆる保育料を事業収入として計上したためである。

また、前年度は認定こども園舎建築に係る臨時的補助金を計上したため、本年度の補助金に係る予算が減額となっている。

資金支出の部合計では、前年度予算に比べ9百万円程度減少している。主な大科目の増減内訳としては、人件費 1億1千万円増加、教育研究経費支出 8千万円の減少、管理経費 6千万円減少、施設関係支出 1億5千万円減少、設備関係支出 2千万円増加となっている。人件費の増加要因としては、定昇分の勘案と通信教育の学生数増に対応する専任教員数を確保する為などである。

よって、平成26年度末に保有する現金預金の見込金額、いわゆる次年度繰越支払資金は、24億7千万円と見込まれる。これは、平成24年度決算に比べ、3億7千万円の増加が見込まれることとなる。

資金収支収入予算における前年度予算のとの比較



単位：千円

消費収支予算について

平成26年度の消費収入は、資金収入の増減要因に加え、土地の購入・耐震補強・新2号棟建築計画など、基本金組入対象資産の増加が大きく、また、前年度の支出予算規模が大きくなったことによる恒常的保持資金である第4号基本金の増加等により、基本金組入額が前年度に比べ約9千万円増加、消費収入は約2億4千万円減少しており、消費収入の合計は、約32億6千万となっている。

消費支出の合計は、平成25年度補正予算より約1億2千万円減少している。これは、前年度に比べ人件費が約1億1千万円の増加に対し、資産処分差額の減少と、その他経費を圧縮したことによるものである。

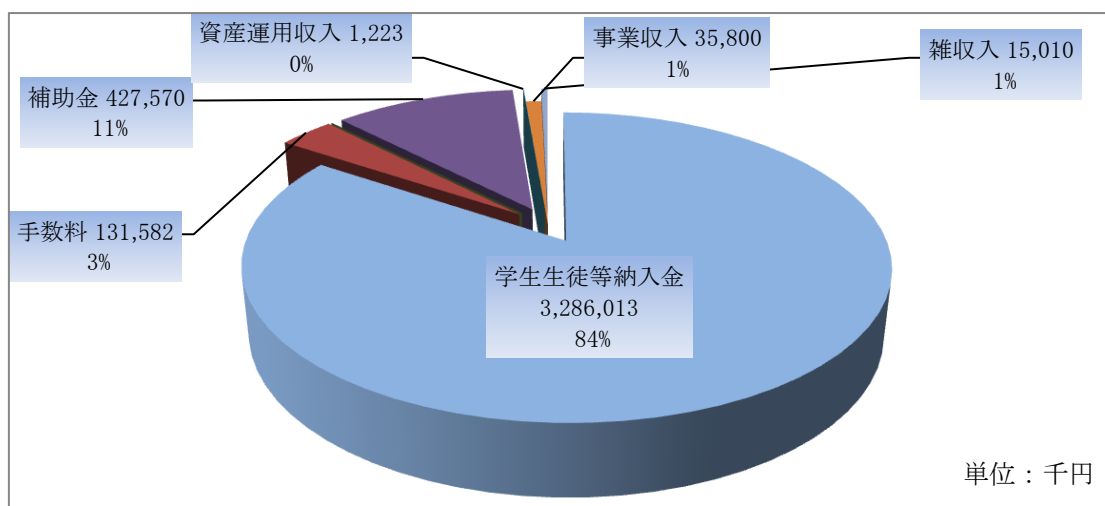
消費収支の構成は、下記構成図①に示しているとおり、収入は学生生徒納付金が84%を占めている。支出の構成は、人件費62% 教育経費25% 管理経費11%となっている。

よって、平成26年度の消費収支予算における消費収支の状況は、約5百万円の収入超過の状態で見られ、また単年度収支では収入超過の状態が続いている。

翌年度繰越消費収支の差額は、支出超過いわゆる赤字の状態にあるが、当年度収支の改善により、約6億4千万円に累積赤字を圧縮する見込である。

構成図①

消費収支予算に係る収入の構成



消費収支予算における支出の構成

